

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
06	地域としての外国人労働者の受け入れ
メンバー	田村 瑠実愛 / 岡本 諒子 / 田中 里苑 / 藤原 裕子 / 管原 月美 / [学 生] 成田 智郁 / 鈴木 康平 / 阿部 夏澄 / 坂本 叶羽 / 金子 真夕 / 菊池 香好 / 水澤 妃奈乃 [担当教員] 孔 麗

【背景】

少子高齢化による労働力不足が問題となっている日本社会において、外国人労働者は欠かせない存在である。これは、日本のみならず他国にもみられる問題であり、現在、世界で労働力の奪い合いが起きている。また、外国人労働者の多国籍化もみられる。

そこで、地域プロジェクトの活動を通して、労働者だけではなく生活者としての外国人労働者の実態をよりよく理解したうえで日本が外国人労働者から「選ばれる国」になるための方策を考えるとともに、必要な支援活動を行うこととした。

【目的】

1年間の地域プロジェクトで、外国人労働者のなかでも未熟練労働者である「技能実習生」に着目し、座学研修や受入企業の講義を通して、現在の日本の労働者受入体制について理解を深める。さらに、彼らとの交流を通して、生活の様子や抱える問題、日本国に求めること等を明らかにしたうえで、日本が「選ばれる国」になるために必要な支援を学生の目線で考えることを目的とする。

【概要】

1年間の地域プロジェクトで、座学研修や講義、新規入国外国人技能実習生への日本文化の紹介と文化交流、函館市内の水産加工企業を訪問、外国人技能実習生が働く現場の見学を行った。帰国直前の技能実習生との意見交換から、現在の日本の外国人労働者の受入体制や技能実習生の生活の実態について理解を深めた。また、私たちにできる技能実習生への支援を考え、産学官民の連携による水産加工と自動車産業間の文化交流会を行い、異文化理解の重要性を地域に広める試みをした。

【プロセスと成果】

前期の活動では、4月に座学研修を行い、外国人技能実習制度の仕組みや在留資格である「特定技能1号・2号」創設の経緯と概要について学んだ。5月には森町で新規入国外国人技能実習生との異文化交流会を実施し、来日の動機や母国での事前研修の内容について話し合った(写真①②)。6月は外国人労働者受け入れに関する勉強会を実施し、日本の外国人受入れ体制についての理解を深めた。7月は帰国直前の技能実習生との意見交換会を実施し、技能実習生の生活実態の一端を把握できた(写真③④)。8月には外国人労働者に関わる映画上映会に参加し、日本の受入れ体制にちなんだ技能実習生を不法滞在へと追い込んでしまった問題などを学んだ。

後期の活動では、10月に紋別市による「外国人との多文化共生の実態と取組み」の講演会にオンラインで参加し、多文化共生の先進的取組みや外国人の就労支援などについて学んだ(写真⑤)。11月は本プロジェクトと函館市の共催による、産学官民の連携による異文化交流会を実施した。学生による日本の文化紹介を行ったり(写真⑥)、SNSを通じて折り紙で母国の家族へメッセージを送ったり(写真⑦⑧)、どら焼きを作って実食し(写真⑨)、浴衣で函館の名物であるいか踊りをする事で(写真⑩)親睦を深め、同じ地域に暮らす生活者として異文化理解を深めることができた。

12月は函館市内の水産加工企業を訪問し、技能実習生が働く現場の見学、スリランカ人の技能実習生との交流を通して技能実習生の労働環境や技能実習生の受入の現状を学んだ(写真⑪⑫)。



①プレゼンの様子(森町)



②鯉のぼりアート記念撮影



③技能実習生との意見交換



④白玉団子の作成



⑤紋別市による講演会



⑥日本文化の紹介



⑦折り紙で母国の家族へメッセージ



⑧SNSで母国の家族と情報共有



⑨どら焼きの作成&美食



⑩浴衣でいか踊り



⑪水産加工企業によるご講話



⑫スリランカ技能実習生との交流

【総括と反省・今後の課題】

座学研修や現場活動、技能実習生へのアンケート調査から、日本の外国人労働者の受入体制の現状について学んだ。技能実習生との交流会では、日本語でのコミュニケーションが難しいなどといった生活する上での問題を知ることが出来た。また、産学官民の連携による初の水産加工と自動車産業間の交流会やSNSを通じた母国家族との交流を行い、異文化理解を深めた。一方、多国化している技能実習生と彼らの労働環境をより理解することが必要である。今後、多文化共生の実現に向けて、技能実習生との交流の場や輪をさらに広げると同時に技能実習生へ向けた日本語学習支援について考えることが必要である。

今年度は異文化交流を通して、地域から多くの評価をいただいたため、次年度の本プロジェクトの学生は、それらを活かした活動を行ってみたい。

【地域からの評価】

- ◆はじめてベトナムの人と交流した。交流はとても楽しく良い経験になった。(市民)
- ◆ほかの企業や職種で働く技能実習生が交流する機会はあまりないので、今回の取り組みは良い経験になったのではないか。(企業)
- ◆みんなで作る料理はとても楽しく、またおいしかった。参加してよかった。(技能実習生)
- ◆外国人技能実習生との交流会を通じて、異文化の理解を肌で感じる事が出来た。(高校生)

【新聞記事】

令和4年5月5日に開催した「森町異文化交流会」の活動の様子は、①『函館新聞』(22.5.10)に、11月23日の「産官学民の連携による外国人技能実習生との異文化交流会」の様子は、②『函館新聞』(22.11.25)、③『読売新聞』(22.11.26)、④『北海道新聞』(22.12.2)に掲載された。(報道の記録・P90に一部掲載)

【謝辞】

本プロジェクト活動の実施に当たり、函館市、トナミ食品工業株式会社、函館日産自動車株式会社、JICA北海道センター、(一財)北海道国際交流センター、(一社)北海道中小企業家同友会函館支部、渡島国際交流事業協同組合、株式会社竹田食品、函館遺愛女子高等学校、外国人技能実習生の皆様、地域住民の皆様からご協力、ご支援をいただき、心より感謝を申し上げます。

【年間スケジュール】

前期日程

- | | |
|---|--|
| <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・座学研修 ① 外国人技能実習制度の仕組み ② 新在留資格「特定技能1号・2号」創設の経緯と概要 <p>【5月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後、新規入国外国人技能生との異文化交流会の企画 ・森町の新規入国外国人技能実習生との異文化交流会の実施・反省会 | <p>【6月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外国人労働者受入を問う」勉強会 ・発表会・検討会 <p>【7月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰国直前の技能実習生との意見交換会の企画・準備・実施 ・中間発表会の準備・実施 <p>【8月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在日外国人家族とベトナム技能実習生を題材にした映画上映会の参加 |
|---|--|

後期日程

- | | |
|---|--|
| <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・外国人労働者受入の先進的取り組み地域 - 紋別市の受入体制についての勉強会 ・紋別市「外国人との多文化共生の実感と取り組み」講演会の開催 ・討論会 <p>【11月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産官学民の連携による異文化交流会の企画 ・関連団体との連携準備・相談・広報 ・交流会開催のための勉強会・資料の作成 ・産官学民の連携による異文化交流会の実施 | <p>【12月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産官学民の連携による異文化交流会実施後反省会 ・交流会の資料整理・課題の作成 ・道南地域の水産加工企業の外国人労働者受入の勉強会 ・外国人労働者を受け入れる水産加工企業の訪問と外国人労働者との交流 <p>【1月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問後の感想発表会 ・最終発表会の準備 ・最終発表会の実施 |
|---|--|

